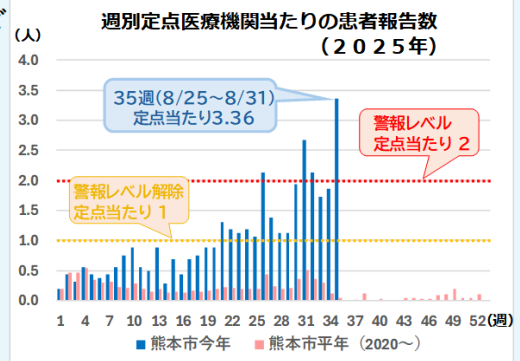




伝染性紅斑（リンゴ病）**警報レベル**が続いています

主な症状 約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失します。中には長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再び出現したりすることがあります。

治療と予防 特別な治療法はありません。基本的には軽い症状のため、経過観察を含め、症状に応じた治療となります。伝染性紅斑の主な感染経路は「飛まつ感染」と「接触感染」です。かぜ症状のある人はこまめな手洗いや、せき・くしゃみが出る時には口と鼻をハンカチ等でおおうなどの「咳エチケット」が大切です。



※国が定める流行の基準

警報レベル 定点当たりの患者報告数 2

◎妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ◎

妊婦が感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。また、感染しても症状がない場合もあるため、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、妊婦健診の際に医師に伝えてください。

定点 種別	疾患名	状況	34週(8/18～8/24)		35週(8/25～8/31)	
			報告数	定点当たり	報告数	定点当たり
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	—	4	0.17	0	0.00
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		240	10.43	221	9.61
	急性呼吸器感染症(ARI)		1262	54.87	1224	53.22
小児科	RSウイルス感染症		7	0.50	18	1.29
	咽頭結膜熱(プール熱)	—	2	0.14	2	0.14
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	12	0.86	12	0.86
	感染性胃腸炎	—	66	4.71	42	3.00
	水痘(みずぼうそう)	—	0	0.00	0	0.00
	手足口病	—	5	0.36	5	0.36
	伝染性紅斑(りんご病)	○	26	1.86	47	3.36
	突発性発しん		16	1.14	9	0.64
	ヘルパンギーナ	—	6	0.43	2	0.14
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	—	0	0.00	2	0.14
眼科	急性出血性結膜炎	—	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	—	8	1.60	11	2.20
基幹	細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		16	3.20	20	4.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警報レベル △:注意報レベル —:警報・注意報レベルなし